



\*第11回\*

## 杉藤 泰子

NHK技研

### 前例を破ろう！ 道を切り開こう！

#### 好きこそものの上手なれ

私は、現在、NHK放送技術研究所で映像符号化の研究に携わっています。以前は特許庁で審査官をしておりましたが、縁あって現職に就いています。

現職と前職でまったく違うことをしているとされるかもしれませんが、私の中で一貫しているのは、コンピュータ、画像、数学が好きということ。

私は父の仕事の影響で、7歳からパソコン(PC)を使い始めました。中学、高校では通称・数楽班に所属し、休み時間や部活はPCで遊んでいました。高校で班長を務めた時には文化祭でPCについての展示を行いました。女子校でしたので、相当な変人に見られていたと思います。その結果、何の迷いもなく情報系学科を志望し、なるべく女子が少ない大学を選んで進学しました。

大学に進学して感じたのは、高校の同級生達は優秀だった、学力に関して男女は関係ないということです。高校の成績は大変お粗末なものでしたが、大学ではそこまで悪くありませんでした。一方、体育の授業では男女差を感じざるをえませんでした。スポーツでは男女で種目が別れていますし、身体能力に差があるのは仕方がないことだと思っています。

大学時代には興味が高じて秋葉原の

今はなき自作PCショップでアルバイトをしていました。ビデオカードなど自作パーツの商品知識は現在でも役に立っています。大学ではコンピュータアーキテクチャ、画像処理、画像符号化の研究をしていました。アルバイトに精を出し過ぎたことや、自分で選んだ研究テーマが先進的すぎてつらかったことから、研究ではないものの専門性が生かせる特許庁に就職しました。

特許庁では、計算機細部というハード/ソフトウェア何でもありの分野に配属されました。700件ほどの出願を審査しましたが、何でもありの分野だけに出願人はのべ200社以上と多岐にわたっていました。その中に現所属が含まれていなかったことが逆に縁になっています。審査では、特許法第29条第2項でいうところの「当業者」目線で拒絶理由通知を書かなくてはなりませんでしたが、大変勉強になりました。文献を読んで技術を把握する能力とロジカルで説得力のある文章を執筆する能力が鍛えられましたし、長時間机に向かっていることが苦にならなくなりました。

以上ご紹介しましたように、私は大学から今まで女性が少ないところに所属しています。あまりない名字や飲み会が好きなのも相まって、周囲の方には良くも悪くも私のことを覚えてもらっていると思います。

#### 前例を破ろう！

大変つまらないことかもしれませんが、私は仕事を一番大切にしています。

仕事はお金をいただいてやらせてもらっていますが、家庭はほとんど自分の意思で選んでいることなので、それを言い訳にしたくないと考えています。

このように考えるようになったのは前職での経験からだと思います。前職も女性が少ない職場で、所属していた約300名の部には女性の管理職がいませんでした。管理職になるには30歳前後から忙しい部署で経験を積むのが通例でしたが、家庭を優先して審査業務をしている女性が多かったです。それにもしかしたら、人事権のある方々は、どうせ女性は出世に興味はないだろうとか、せっかく異動させても休まれたら困ると考えていたのかもしれない。私はどうなりたいかと考えたときに、残念ながらロールモデルとなる女性はいませんでした。

この状況を打開したいと思い、ロールモデルがいなければ自分がそうなるしかない、もしかしたら私と同じように家庭より仕事を望む後輩がいるかもしれない、と考えるようになりました。この思いは今でも変わりません。そして、何をしても「女性にしては」よくやったと思う人もいると思うので、そう思われたい、しっかりやりたいと考えています。

人それぞれだと思いますが、私は家庭のことは状況に応じて分業すればよいと考えています。妊娠、出産は女性しかできませんが、その他は男女に関係なくできることではないでしょうか。今や子供は3歳まで家庭で母親が面倒をみるべきという、いわゆる3歳

† NHK放送技術研究所

"Let's Break a Precedent! Let's Blaze a Path!" by Yasuko Sugito (NHK Science & Technology Research Laboratories, Tokyo)

児神話は否定されています。私自身も3歳前から保育所に通っていました。まして公務員は倍率の高い採用試験があり、男女の区別なくそれぞれが一定以上の能力を持っているとされているのですから、女性ばかりが家事や育児を負担して仕事で能力を發揮できないのは、もったいないことだと感じていました。

2010年の国勢調査によると、夫婦のいる一般世帯を分母とした共働きの割合は45.4%だそうです。私の周囲を見ても共働きではない家庭が多いですし、女性が働くということに対する理解がようやく少しずつ広まってきたところかと思えます。そのような中、家庭を優先したいと思っていない女性もいる、出世に興味がある女性もいる、と認識していただければ幸いです。

大きい話になりますが、日本政府では指導的地位に占める女性の割合を、2020年までに30%程度とする目標を掲げています。読者の中には人事権をお持ちの方もいらっしゃるでしょう。女性を登用した前例がないが適した方がいるという場合は、ぜひ推薦していただきたいです。出世欲が強くなるとも、せっかくだからやってみようと思う人もいますし、立場が人を作ることもあります。とにかく女性でもやれるという前例をつくっていくことが大事だと考えています。

ただし、女性の登用を増やすという目的を重視するあまり、遂行能力が充分ではない人を選んでしまうのは意味がないと思います。登用された女性も、その周囲の人も、お互いに不幸になるのではないでしょうが。

いろいろ言ってしまいましたが、現職では少数精鋭でやっていることもあり、性別や前例に関係なく機会を与えていただいていると感じております。ご理解、ご配慮をいただいている周りの方々には大変感謝しております。

### ライフハック

お固い話はさておき、仕事以外の話をしたと思います。我が家は共働き

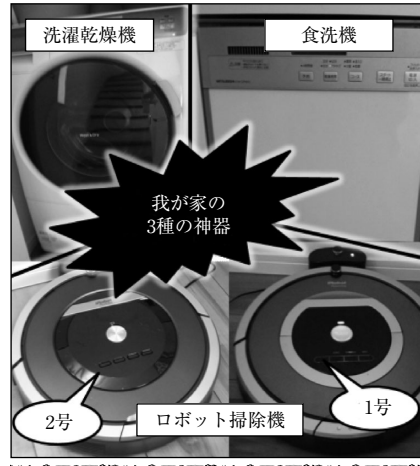


図1 共働き3種の神器

二人暮らしで、自分の身の回りのことは自分でやることを基本としています。私は職場の近くに住んでおりますので、自分では家事を多めにやっているとと思っています。仕事優先にしたいので、家事を完璧にこなそうとは考えていません。食事を作るのは私、片づけるのは相手というように大まかに分業していますが、家事はもっぱら私の友人が「共働き3種の神器」と呼んでいる家電たち(図1)にお任せしています。

洗濯乾燥機、食洗機は洗い物を入れてピッとお願いするのみです。ロボット掃除機は、毎朝場所を変えて試運転してから出かけるのが日課です。スケジュール機能で昼間にもう一度掃除してもらいますので、大変な働き者です。

食事は週1回の宅配サービスで頼んでいる冷凍おかずセット、材料のカットまでしてあるお料理キットが重宝しています。外食することもあります。自炊では電気ケトルでお湯を沸かす、火のとおりにくい根菜は電子レンジで下ごしらえする、電子レンジ用調理器具を使うなど、並列化と実行の工夫により、高速化を図っています。

コンピュータの高速化で問題になるのは電力です。我が家でもたびたびブレーカが落ちることがあり、無線電力計(図2)を導入しました。

電力計のおかげで省エネにもつながっています。エアコンの定常状態の消費電力がとて少ないことがわかって感心しつつ、メーカーの方はきっと開



図2 無線電力計

発するのに苦労されただろうと思いをさせています。

私たちはPC、ゲーム、家電製品、謎解きなどが共通の趣味で、これまで紹介したようにマニアックな生活をしています。家庭のポリシーは、それぞれの目標を持って相手に依存しすぎない、大変なときは助け合う、です。世の中にはさまざまな連絡ツールがありますが、お互いに信頼しているせいか、職場にいるときは仕事モードになっているせいか、日中はほとんど連絡しません。連絡がなく帰りが遅いときなどは、位置情報共有サービスを使うこともあります。私は研究発表、展示業務、規格化会合など出張で家をあけることも多いですが、適当に距離をとって一人の時間を持つことが円満な関係を続けるコツと考えています。それに個人的には、家庭事情を理由に出張という仕事のチャンスがなくなり、他の方にとられるのが嫌なのです。我ながらはなはだしい負けず嫌いだと思います。

### 道を切り開こう！

せっかくの機会ですので、今後、日本の職場でぜひ変えていただきたいと思っていることを書きたいと思います。法律上は男女に関係ないのですが、実態としては圧倒的に女性に多い問題です。

特許公報(B2)		(11) 特許番号
		特許第4113376号 (P4113376)
		(24) 登録日 平成20年4月18日 (2008.4.18)
F1		
G06F	1/00	341P
G06F	1/00	333C
H01M	10/48	P
H04M	1/00	U
H04M	1/73	
請求項の数 2 (全 24 頁)		
02-133450 1.5.9)	(73) 特許権者	000006013 三菱電機株式会社 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号
03-330579A)	(74) 代理人	100098461 弁理士 溝井 豊司
03.11.21)	(74) 代理人	100114878 弁理士 山地 博人
5.1.13)	(74) 代理人	100118810 弁理士 小原 秀美子
	(72) 発明者	小松 正之 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号 三 菱電機株式会社内
審査官 杉藤 泰子		

図3 初めて名前が載った特許公報

私が今困っているのは、名前の問題です。私の職場では、現状、杉藤泰子を発明者として特許出願することができません。名前が違うと外部から見たときに同じ人だと思ってもらえない不都合があります。特に研究者は業績の積み重ねが大切ですので、同じ名前を名乗り続けることに意義があります。

私の場合は、家庭事情を知られたくないということも大きいです。名字は何になったの？など、どこから知ったのか聞いてくる方がいて、個人的には嫌な思いをしています。

話を戻すと、前職でも同じ問題がありました。審査官は個人名で特許査定、拒絶査定という行政処分ができる珍しい立場にあります。ご参考までに、**図3**に私の審査官名が初めて載った特許公報を示します。

審査官が拒絶査定をする前には拒絶理由通知を出す必要があります。前職では、拒絶理由通知は旧姓で良いが、特許査定、拒絶査定は戸籍上の名前を使用するというルールがありました。その理由として、職場内のシステムには一つの名前しか登録できないこと、他省庁に前例がないことがありました。これは、現職でも同様です。

確かに、特許庁のホームページには、発明者の氏名は戸籍上の名前とするように書いてあります。

しかし、これはあくまでも行政庁の見解であり、判例に基づくものではありません。

りません。他力本願な言い方になりませんが、特許法第36条第1項第2号にある「発明者の氏名」は戸籍上の名前とする必要があるのか、誰かが裁判を起こすことによって、ようやく法解釈が明らかになるのです。これまでも行政庁が出していた指針が裁判によって覆った例があります。

一方、特許法上の「代理人」になれる弁理士は、旧姓で法務を行うことができます。弁理士になるには民間団体である日本弁理士会に登録する必要がありますが、その際に旧姓で登録することができるのです。弁護士の登録についても同様です。

一般的には職場も民間団体ですが、弁理士や弁護士の場合と同様に、戸籍上の名前と旧姓のマッチングがとれていることを証明できれば事足りるのではないのでしょうか。

行政手続き、社内手続き等には、戸籍上の名前だけでなくはならないこともあると思いますが、そうでなくても構わないこともあると思います。これらの線引きをして、できるだけ広い範囲で旧姓を使えるようにしていただきたいです。民間企業の中には、源泉徴収票、保険証も旧姓で発行しているところもあると知人から聞いています。

個人的には、国民総背番号制が導入されれば、名前が違っていても一意に特定でき、旧姓の使用範囲が広がるのではないかと、夫婦別姓が導入されれば良いな、と考えております。

まったくピンとこない方もいるかもしれませんが、こういった二重生活に苦を感じている人も知っていることと知れば幸いです。また、このような取り組みを行うことで、多様性のあるより良い職場を作ることができ、優秀な人材を採ることもできるという会社側のメリットもあるのではないのでしょうか。

考えてみれば、そもそも職場で旧姓が使えるようになったこと自体、大変なことだったと思います。先輩方が作ってくださった道を、引き続き切り開いていきたいです。

## あともう少しおつきあい下さい

残された誌面ももうわずかです。これまでの主義主張で、面識がない方には面倒な奴だと思われたかもしれませんが、普段は気楽な感じで過ごしています。接した人から話しやすいと思われる人になりたいと思っていますし、雰囲気悪くして、これだから女性はヒステリックだとか思われるのが嫌だからです。ですので、面識がある方は本文を読まれてこんな暑苦しいくらいの強い思いがあったのかと思われたかもしれません。

本人としては真面目モードとその他モードとのギャップを楽しんでいるところもあります。審査官時代には出願人の方と面接をする機会がありましたが、厳しい文面の拒絶理由通知をもらったけれど、面接でこんな人が出てきて大丈夫なのか？と聞いていらっしやるのではないかなどと考えていました。

人前でピエロを演じるのに抵抗がある方もいるでしょうが、雰囲気盛り上げるにはどちらかというと女性の方が有利かなと考えてふるまっています。これまでに職場の親睦会幹事をする機会が何度もありました。わざわざ指南役の親幹事に立候補したこともあります。いずれも拙い芸を披露するなど、場を盛り上げるべく楽しんでやらせてもらいました。

以上、長きに渡り、個人的なことを述べてまいりましたが、一行分でもご参考になることがありましたら幸いです。今回このような機会をいただき、自分の棚卸しをすることができました。感謝を申し上げるとともに、これからも楽しく、ときに真面目に、前例を破り、道を切り開いていきたいと考えております。現在の研究についてはまったく触れませんでした。学会活動を通じてご報告したいと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。

(2014年3月31日受付)